

天理教 江南支部だより

発行先
発行日
発行責任者
発行住所

江南支部
立教189年10月1日
九里正昭
甲賀町神1750番地の1
10月号 N0313



立教百八十九年
秋季大祭
十月二十六日 午前八時

「おさじづより」
いんねんというは、成るまいと思たて
成りて来る。しように思たて成らせん。
成らんとすれば、これどうもならん。
成ると成らんと聞き分け。
(明 29・11・26)

おぢばへ帰ろう！



前夜祭
夕づとめ後午後6時
東西泉水プール前広場

前日行事
・フットサル大祭
・あらきとよりようひと
ことはなし大会
・境内地ひのきしん

式典
十月二十七日午前十時
本部中庭

第百回 青年会総会

第31回

女子青年大会

11/1 日

友達誘って おやさとぢばへ
～ 伝えよう 私たちから み教えを ～

式典 ▶ 午前10時 本部中庭 〈受付開始〉 午前9時

記念行事 ▶ 式典終了後 支部の時間 ～話そうみんな～

別席 ▶ 〈受付時間〉 午前席 7時30分～9時30分 午後席 正午～1時30分

記念行事 / おやさとマルシェ
時間 / 夕づとめ後～午後8時
場所 / 東・西泉水プール前広場 お茶所

10/31

だけでも有難い

深谷善太郎著

チューリップの思い出

春の花と聞いて多くの人がイメージするのは、やはり桜でしょうか。おちばでは例年、まず梅が咲き、続いて東筋のアタミザクラ、別席場前のシダレザクラ、ソメイヨシノと順に咲いて、帰参者を喜ばせてくれます。

桜が終わって満開を迎える花の一つに、チューリップがあります。チューリップというと、私は母のことを思い出すのです。私には産みの親と育ての親の二人の母親がいます。このうち、育ての母はチューリップの好きな人でした。私はそのことを子供のころから知っていました。なぜ好きなのかは知りませんでした。

妻と結婚して、しばらくしてからのことです。母は妻と一緒に庭いじりをしながら、その訳を話してくれたそうです。それは私の話でした。私が小学校に上がりたところ、母の誕生日にチューリップの球根を買ってプレゼントしたことがあります。それ以来、母は毎年チューリップを植えて世話をしてい

たとのことでした。そう言われてみると、確かにチューリップの球根を買った覚えがありました。でも私は、そのことをすっかり忘れていました。

母からすれば、それが最初に私からもらったプレゼントだったのだと思います。それがうれしくて毎年チューリップを植えて育ててくれていたのです。つくづく親心は有難いと思います。

母のこと、もう一つ思い出すのは、私が中学校を卒業して天理高校へ入ったころのことです。私は自分に産みの親がいること、そして、その母が出直していることを初めて知って、精神的に不安定な時期を過ごしました。のちに母は「あのとき、あんたは自分の徳の力で乗り越えてくれた」と言いました。しかし私には、自分の力で乗り越えたという自覚はありませんでした。それがもし、私の徳の力だというのなら、いったいその徳は誰が積んでくれたのか。自分で積んだ覚えはないのです。

私は親々のおかげだと思うのです。そして、母だと思うのです。おそらく、

私がそのことを悩んでいるのを知って、親神様に一生懸命祈ってくれたと思うのです。私がそのふしを乗り越えられるように願って通ってくれたに違いありません。おかげで乗り越えることができました。親というのは本当に有難い。子供がどれだけ親のことを思ったところで、親には敵わないと思います。

私たちの親は、親神様、教祖です。教祖は、私たちが人をたすけることをお望みくださっています。そのお心に応えさせていただき、一人でも多くの方をおぢばへお連れして、教祖にお喜びいただきましょう。



『みちのとも』より一寸いい話 日々、感謝の心で

新村とし 瀬ノ上分教会長

朝、目が覚めると、「ありがとうございます」とつぶやき、手を合わせます。今朝も何事もなく目が覚め、一日が始まることへの感謝を述べるのです。私は青森の教会に住み込む両親のも

とに生まれました。わが家は両親と子供7人の9人家族。出直した長女を入れると10人になります。教会には私の家族のほか3組の家族が住み込んでいました。会長さん家族も合わせると、子供たちだけで20人ほど。さらに、数人の青年さんがおり、多くの人に囲まれて育ちました。

おかげさまで、食べるのに困ることはありませんでした。信者さんが丹精込めて作ったお米、野菜、リンゴなど、お供えしてくださったものを頂きました。また、父母も野菜を作っており、収穫するのが楽しみでした。時折、あれが食べたい、これが食べたいと言うと、父は「枕もとに食物を山ほど積んでも、食べるに食べられず」と、教祖の話聞かせてくれました。すると私は、いつも泣けてくるのです。「そのことを思えば、わしらは結構や……」と話す父もまた泣いていました。

また、信者さんからお下りの服を頂くと、姉妹で取り合いになることもあります。すると父は、こかん様の話をしてくれます。するとやはり、父

と一緒に涙を流していました。いまはつらいこともあるけど、大きくなったら食べ物や着る物に不自由することなく暮らしていけるようになる……。

父が聞かせてくれた教祖、こかん様の話が、いまも頭から離れません。父の言葉通り、いまは何不自由なく、ありがたく、もったいない生活をさせていただいています。

中学を卒業すると、天理高校第二部に進学し、昼間は縫製工場に勤務しました。二代真柱様が二部生に働く場所をと声を掛け、お世話してくださった工場です。

4年の高校生活の間に母が出直しました。卒業し、教会に戻ると、大勢いた住み込み家族は布教所を設立するなどして皆いなくなり、私たち家族だけになっていました。母に代わって台所仕事や会長さんの子供たちのお世話などをさせていただきながら、教区・支部の女子青年や少年会の御用を9年間つとめました。

その後、縁あって教会の後継者と結婚し、福島にあるいまの教会に迎えて

いただきました。それから現在まで、50年になるうかという道中では、乳がんの身上や、前会長の出直しなど、さまざまな節をお見せいただきました。そのなか、なんといつても大きな節は東日本大震災です。本当に心が折れそうになる出来事でした。

教会の建物は当時、築130年ほどで、地震の前からあちこち傷んでいました。屋根のトタンははがれ、修繕しても大風が吹くと飛んでいってしまふ。大雨が降れば雨漏りと床下浸水。門の脇にはいつも土のうを用意しておいて、浸水対策をしていました。

そんな状態だったので、地震の際は建物が崩壊するかと思うほどでしたが、なんとか持ちこたえてくれました。しかし、半壊と認定され使用できなくなりました。そこで、上級の会長様はじめ多くの方々と話し合い、普請をすることになりました。皆さんが心を寄せてください、また、ご本部からお心を掛けていただいて、無事に普請することができました。

雨漏りを心配せずともよい神殿、参

拝場、風で屋根が飛ばされる心配もありません。ありがたく、もったいないことと喜び、親神様のお導きに日々、感謝申し上げます。

お風呂も外風呂から内風呂になりました、前会長が出直す前、訪問介護の方が簡易の浴槽を持ってきてくださったのですが、血圧が低くて入浴することができませんでした。つらかったろうと思います。そんなこともあり、新しいお風呂に入ると必ず、ありがとうございますと手を合わせます。

東日本大震災以降も、全国各地で災害が起きています。いまでも苦しく、つしい思いをされている方々のことを思うと、震災当時のことが思い出されて、私の心も苦しくなります。

当たり前のようなことが、どれほどもったいなく、ありがたいことか……。日々、朝夕のおつとめで、親神様・教祖、祖霊様にお礼申し上げます。



開館96周年記念展

「古今和歌集と伊勢物語」

天理図書館

会期：2026年10月19日（月）～11月8日（日） ※会期中無休

時間：9:30～15:30（入場は15:00まで）

会場：天理大学附属天理図書館
（天理市杣之内町1050 天理大学杣之内キャンパス内）

観覧料：1,000円（中学生以下無料）

主催：天理大学附属天理図書館

後援：奈良県・天理市・天理市教育委員会・天理市観光協会・歴史街道推進協議会

10月支部ひのきしんデー

10月27日（火曜日）午前9時～11時30分

甲賀学園 鹿深の家 草刈りひのきしん

10月にをいがけデー

10月28日（水曜日）午前9時～

拠点教会 神山分教会 信楽町多羅尾2441番地